

Discover My Dream

[上級学校見学会]

9月に行われた上級学校見学会についてお伝えします。

これまで1年次生は「産業社会と人間」の授業を通じて自己の将来の職業や進学先について学んできました。今回は実際の大学・専門学校を見学して進学に対する具体的なイメージを作り、意識を高めていきます。

今回訪問した学校は以下の通りです。

- 明星大学
 - 理工学部 人文学部 経済学部 情報学部
 - 教育学部 経営学部 デザイン学部 心理学部 (8学部)
- 日本工学院八王子専門学校
 - クリエイターズカレッジ
 - ①放送・映画 ②声優・演劇 ③アニメ・マンガ
 - ④ゲーム・CG
 - デザインカレッジ
 - ⑤デザイン
 - ミュージックカレッジ
 - ⑥ミュージックアーティスト ⑦音響・コンサート
 - ITカレッジ
 - ⑧IT・情報
 - テクノロジーカレッジ
 - ⑨電気・電子 ⑩ロボット ⑪建築・土木 ⑫自動車
 - 医療・保育カレッジ
 - ⑬医療秘書 ⑭鍼灸・柔整 ⑮こども
 - スポーツカレッジ
 - ⑯スポーツ

2年次生は、東京純心大学・帝京大学・ヤマザキ学園大学・山野美容芸術短期大学・大原学園(立川校)・エコール辻東京・日本工学院八王子専門学校・静岡大学・常葉大学を訪問し、午後は上野原市文化ホールにて個別説明会に参加しました。実際に学校を訪問し、規模の大きさ、施設、学びの深さ、学生達の様子などを見聞きすることができて、将来を考える良い糧になったと思います。

夢発見!



[見学先] 明星大学、日本工学院八王子専門学校

1年C組 小森しもん(早川中)

新しい物を見たり聞いたりするのが好きなので、今回の体験はとても楽しく学ぶことができました。どちらの学校も素晴らしく、大変魅力的だったのですが、日本工学院の方は特に魅力を感じ、思わず入学したくなってしまいました。2年次の上級学校見学会も楽しみです。



[見学先] 常葉大学、静岡大学

2年C組 藤田梨子(身延中)

常葉大学内にある外国語の部屋に入ると、部屋の中で英語が飛び交っていて、「自分もこの空間に入りたい」と強く感じた。先輩の話聞いて、「まず自分がやりたいことは何か」をはっきりさせ、そのために学ぶべき事を考えなければならぬと思った。新しいキャンパスができたら行ってみたい。



校長の

つぶやき



今年の東京モーターショーは、どのメーカーも当たり前のようにAIを搭載した試作車を発表していたそうです。時代は私たちの予測を遙かに超えたスピードで変化・発展していきます。

そんな時代の大きな変化の中で、社会が皆さんに求める能力も大きく変わりました。学校で学んだ知識を記憶しておく力が求められた時代は終わり、これからは、知識を活用して諸課題を解決していく能力が求められていきます。

そしてその能力を育成するため、大学も高校も大学入試も、中学三年生の皆さんが高校に入学したときから、三位一体で大きく変わっていきます(「高大接続改革」といいます)。

高校に求められるのは、改めて基礎・基本の土台作りと活用力、課題解決能力の育成です。「普通科目を軸とした総合学科高校」を特徴とする本校は、その特徴を生かした形でこの変化への対応をスムーズに進めることができています。

家庭学習習慣の確立のため、現1年生よりweb教材「Classi」(クラッシー)を導入しました。学校でのICT活用において、日本は他の先進国に後れを取っており、児童・生徒がICTの活用能力を高めることは、県の施策の柱ともなっています。新しく変わる大学入試の出願書類作成にも利用が見込まれ、「Classi」の導入を契機に、ICT活用の校内体制を整備していく計画です。

今年も「ライブミュージアム2017」が盛況の内に終わりました。

た。1週間だけのミュージアムが身延高校内に登場しました。<美術部門>・<家庭部門>・<演劇部門>・身延中学、南部中学、PTAや地域の方々も加わった特別部門>と4部門に渡り芸術・文化活動を大いに発信しました。今年は演劇部の公演も加わり、3日間の公演は全て満員御礼の盛況ぶりでした。ありがとうございました。

「読書の力によって平和な文化国家を」という理念の下、昭和22年から行われている秋の読書週間も先週終わりました。ICTの活用力が求められる一方で、改めて人間関係やコミュニケーションの大切さが求められています。その大前提となる共鳴・共感・感動の感受性・情緒に関わる領域を、読書を通してしっかりと育てていってほしいと思います。昨年度から「不読率ゼロ」に取り組む本校では、この2週間の読書週間においてどのくらいの貸出数があったのでしょうか。ちょっと気になります。

電気を消して部屋を出ると、各HRが入るB館のあちらこちらの教室に明かりが煌々と灯っています。3年生が論文や面接指導を受けたり勉強したり、それぞれの夢の実現に向け放課後遅くまで取り組んでいます。

「天命を待つ」という境地に至るまで「人事を尽くせ!」

SHINKO 身高VIEW

Vol. 3
2017.November
MINOBU
HIGH SCHOOL

実りの秋特集号



教育界の新たな動きへの本校の対応

《高大接続改革にむけて》

近年のAI(人工知能)の発達により、現在人が行っている仕事のかなりの部分がAIに取って代わられると言われています。これから社会が人間に求めるのは「機械にはできない、人間にしかできないこと」です。具体的にいうと、それは「発想力」や「表現力」と捉えられます。

社会が求める力の変化に伴い、大学入試も変わろうとしています。センター試験に代わる試験として、「高校生の学びの基礎診断」や「大学入学共通テスト」(従来のセンター試験に代わるもの)が実施され、今までの知識偏重のマーク式の試験から、思考力・判断力・表現力を問う記述方式の試験になります。

この高大接続の部分について、このところかなりの時間を割いて国や県をあげて話し合いが行われています。つい先日、「大学入学共通テスト」の英語に関して、「国立大学を受験する場合、従来の筆記試験と外部で行う試験の両方を受験する必要がある」と国立大学協会が発表したという記事が読売新聞に掲載されました。

本校にも確実にその波が押し寄せてきます。そういった状況を受けて、時代が高校生に求める学力をつけられるように、本校ではカリキュラムやキャリア教育を見直してきました。キーワードは「発想力」と「表現力」です。

まずはカリキュラムの見直しを行い、普通科目を基軸とした総合学科としての利点をさらに追及しました。1年次における「産業社会と人間」を通じての職業診断・調べ・職業人講話や職業人イ



ンタビューで自己と職業についての理解を深めます。9月末には上級学校見学会を行い、大学や専門学校を訪問します。1年次生は明星大学と日本工学院八王子専門学校を訪問し、高校卒業後の進学についての予備知識を集めました。2年次生は、より具体的な目標を持って、大学や専門学校を分野別に訪れ、午後は上野原市文化ホールにて個別説明会に参加しました。

通常の授業では、2年次3年次には、豊富な科目選択、最大3クラス10パート展開の少人数授業を通じて、基礎基本を学び、講義形式の授業はもとより、アクティブラーニングや探究型授業を取り入れながら生徒の発想力・思考力・判断力・表現力を伸ばし、様々な機会での学習の成果を発表していきます。授業内にとどまらず、総合的な学習の時間、総合学科発表会、高大連携授業、防災サマーキャンプなどについても同様です。主体性や人間性を学校行事・部活動だけではなく3年間の様々な取組の中で育てられます。

キャリア教育については、身高ドリームプロジェクトとして、1年次「夢の発見」2年次「夢の育み」3年次「夢の実現」と段階を踏みながら、様々な授業や学校行事・進路行事などを通じて一人ひとりの夢の実現につなげていきます。3年間を通して「多様な学び」×「多様な学びの方法」=「一人ひとりの進路実現」をめざし、多様な学びの中で、「発想力」=「確かな知識・技能」×「思考力」「判断力」「表現力」を身に付けていきたいと考えます。

以上のように、身延高校ではこれから求められる力を3年間で身につけ、皆さんがそれぞれの夢を実現することができるようにサポートしていきます。



身高ドリームプロジェクト



求められる学力観

- 主体性人間性
充実した人生をどう実現するか
- 確かな知識技能
何を知っているか何ができるか
- 思考力判断力表現力
知っていることをどう使うか

学習支援クラウドサービス Classi

以上のような力を身につけるために身延高校では、平成29年度新入生より、学習支援クラウドサービス「Classi」を導入しました。導入学校数は全国1,800校以上にのぼり、山梨県内でも10校程が導入または導入を検討しています。

身延高校では、学習動画・ドリル、学習記録の機能を利用した自学自習ツールとしての活用を図っています。今夏は1年次全員にClassi内の学習動画・ドリルを利用して、中学学習範囲の総復習に取り組んでもらいました。各自のペースで、適切な教材を用いた自主学习により、基礎学力は着実に向上しています。

今後は大学入試改革を控えて、自主学习ツールとしての推進に加え、デジタルポートフォリオとしての活用も検討します。学習、行事、部活動、資格検定等の多様な活動履歴の記録、蓄積を通して、生徒一人一人の主体性を伸ばしていこうと考えています。

山梨県高等学校芸術文化祭



演劇部 『仲間と上へ』
部長 2年A組 渡邊りりこ(南部中)

10月21、22日に双葉ふれあい文化会館で高文祭演劇部門地区大会が行われ、優秀賞をいただくことができました。演劇部では全国大会出場という目標があり、そのために一つ一つの練習を大切にしています。しかし目標を達成するのは楽ではありません。地区大会前も大変なことが多々ありました。課題もあります。ですが、そこで立ち止まるのではなく切り替えて行動することが大切だと感じました。ホウ・レン・ソウを当たり前になし、11月28、29日に行われる県大会では私たちが支えてくださっている先生方、保護者に感謝し、自分たちと見てくださる全ての方々を最高だと思える演劇をつくり、関東そして全国へ仲間と共に上りつめたいです!

吹奏楽部 『少人数だからこそ…』
部長 2年C組 佐野友香(中富中)

吹奏楽部は11月に行われる芸術文化祭に出場するため日々練習に取り組んでいます。私たちはまずこの芸術文化祭を通して何がしたいのか、どのような演奏をしたいのかを話し合いました。現在吹奏楽部は11人という少ない人数で演奏をしています。30人、40人で演奏する学校に比べたら迫力も音量も全然足りません。ですが、少人数だからこそ、まとまりがあってひとりひとりの音が聞こえてくる演奏ができると思います。全員の気持ちを一つにし、聞いている人に楽しんでもらえるような演奏ができるよう、残りの練習に取り組んでいきたいです。

美術部 『美術部』
部長 2年B組 佐野早香(身延中)

私たち美術部は今、山梨県高等学校芸術文化祭に向けての作品制作に取り組んでいます。みんな自分の思い思いのものを想像し、それを絵に表現できるように試行錯誤を繰り返しています。二年生は最後の芸文祭なので、毎日丁寧にかつスピーディーに作品を仕上げたいと思います。自分が納得できる作品を目指して描いていきたいです。山梨県立美術館に展示する予定なので、是非見に来てください。これからも美術部の応援をお願いします。

家庭クラブ 『笑顔を届ける』
部長 2年A組 遠藤歩(南部中)

「たくさんの人を笑顔にする」それが家庭クラブの目標です。その目標を達成するために、まずは技術を身につける必要があると考え調理検定という新しいことにチャレンジしました。また、調理だけでなく編み物も練習して少しずつですが一人一人のできる事が増えてきたと思います。先日行われたライブミュージアムでは、私たち家庭クラブが作ったエコたわしや、エコキャンドル、廃油石けんなどで地域の方々に笑顔にする事ができ、たくさんの方々に声を聞くことでこれからの活動をよりよくしていくことができると思いました。この声を生かしていくために、日々の活動を今まで以上に頑張っていこうと家庭クラブ全員が思っています。これからも、たくさんの人を笑顔にできる。「笑顔を届ける」この目標に向かって、気持ちを一つに活動していきたいと思っています。

ライブミュージアム

今年度のライブミュージアムは10月5日(木)～11日(水)に開催され、約400名の方に来校いただきました。

学校を「博物館」という発想でとらえ、美術・家庭・書道の授業作品や美術部・家庭クラブの作品に加え、今年度は演劇部の公演も行われました。萩原光顕氏による講演会及び展示、若尾久氏による福祉講演会は、「生きる」と言うことについて深く考える時間となりました。また身延中学校・南部中学校の美術や

家庭科の作品も数多く展示され、会期中には身延小学校・身延中学校・南部中学校の児童生徒が多数鑑賞に訪れてくれました。相互の鑑賞を通じて豊かな情操を育むとともに、地域との交流を深め、文化レベルの向上を図るよい機会になりました。生徒たちが芸術を少しでも身近に感じ、発表の場を通して自己有用感を高め、また鑑賞を通して新たな発見や感情が少しでも芽生えるきっかけになればと思います。

生徒会紹介



『生徒会として』
生徒会長 2年C組 近藤佑生(身延中)

今回生徒会長に就任しました、近藤佑生です。自分は、これまでの二年間も生徒会として活動してきました。その中には、大変なこともたくさんありましたが、同じ生徒会役員の人たちと力を合わせて学園祭などの大きな行事を成功させていくことの喜びや楽しさを感じることができました。そのように生徒会として活動を行っている中で、三年生がリーダーシップを発揮して自分たちを引っ張ってくださる姿を近くで見ている、自分もそのような人になりたいと思うようになりました。

今はまだ三年生がいなくなってしまう不安が大きいですが、これからは生徒会役員と協力して1年後にこの生徒会でよかったと生徒の皆さんに思ってもらえるように、一生懸命にやっていきたいです。まだ至らない所も多いと思いますが、ご協力をお願いします。

『副会長として』
生徒会副会長 2年C組 中山樹(身延中)

私は9月27日の生徒会認証式で生徒会副会長に認証されました。今年度、私は多くの先輩の背中を見ながら、生徒会役員として活動してきました。これから来年度に向けて私はその先輩方から学んだ生徒会のイロハを生かして、今年度よりさらに良い身延高校を創っていきたいです。そして、私個人としても身延高校副会長である自覚を持ち、副会長としてふさわしい人間になれるよう、他の役員達と切磋琢磨していきたいと思っています。

『挑戦』
生徒会副会長 1年C組 藤田美久(押原中)

私は中学生の時に人前に立つのが苦手でした。しかし、身延高校に入学して皆で協力し合うことや人数が少ないからこそできる事がたくさんあることに気がつきました。そして、自分にもできることがあるのではないかと思い生徒会副会長に挑戦したのです。

先輩や友達と勉強はもちろん部活でも切磋琢磨しながらより楽しく充実した高校生活を送れるように生徒の皆さんをサポートしていきたいです。